

趣向をこらした熱演に観客が大喝采。市民のど自慢の集い

12月2日、第37回市民のど自慢の集いが市民会館で開催されました。歳末たすけあい運動の一環として行われる毎年恒例のイベントです。

当日は、芦別スターキッズダンスMaxの子どもたちによるバレエでオープニング。各町内会、老人クラブの代表やダンス、カラオ

ケサークル、また、芦別警察署が歳末特別警戒をアピールするなど、32の個人・団体が出演し、自慢の歌や踊りなどを披露。会場を埋めた観客の皆さんは趣向をこらした出演者の熱演に大きな拍手を送るなど、楽しい一日を過ごしていました（写真は芦別慈恵園）。



「地元で就職を」。高校生を対象に合同企業説明会が開かれる



12月5日、卒業後の進路として就職を希望する高校生を対象とした「合同企業説明会」が総合福祉センターで開催されました。高校生の地元での就職を増やそうと、芦別商工会議所が主催し、今年で7回目。平成28年からは市と共催しています。

説明会には、芦別市内に本社や

工場、事務所などを置く17の企業、事業所が参加。高校生は芦別高校、星槎国際高校、富良野緑峰高校の合わせて59人が参加しました。

参加した高校生は、市内企業に就職した3人の体験談を聞いた後、各事業所のブースに分かれ、事業所の特色や内容などの説明に真剣に耳を傾けていました。

妊婦を安全、迅速に医療機関へ。陣痛タクシー事業で協定締結

12月10日、市と空知交通株式会社による「芦別市陣痛タクシー事業に関する協定」の締結式が市役所で行われました。

市では、子育て支援の一環として、母子保健事業の充実を図っており、同事業は、陣痛が始まった妊婦を安全に医療機関に送り届けるための協定です。

この事業を始めるにあたり、空知交通のタクシー運転者は、陣痛が始まった妊婦に対してのさまざまな状況に応じた対処の仕方の講習を受けています。

締結式では、同社の林秀樹社長が「妊婦の方の不安を解消するために、安全面には万全を期して行います」と述べていました。



行財政改革と市立病院経営問題で市民説明会を開催



市は、11月30日から12月21日にかけて、市内10か所で「行財政改革の検討状況と市立芦別病院の経営問題等に関する市民説明会」を開催しました。

この市民説明会は、公共施設等の民間委託や補助金・交付金等の見直しなどによって進めている行

財政改革の現在までの検討状況と、地域医療体制の維持を前提とした市立芦別病院の経営問題について、市民の皆さんに説明し、意見を求めるために開催したものです。説明会には、10会場合わせて約300人が参加し、多くの質問やご意見をいただきました。